

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 21 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330167

研究課題名（和文） 戦後日本の幼保二元化政策と理論・カリキュラム・実践・保育者養成に関する実証的研究

研究課題名（英文） The Evidential Study on Two-branched System of Kindergarten and Day Nursery, and the Theory, Curriculum, Practice, and Training for Teachers of Early Childhood Education and Care in Japan after World War II

研究代表者

湯川 嘉津美 (YUKAWA KATSUMI)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：30156814

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：幼児教育史、保育制度、保育理論、保育カリキュラム、保育実践、保育者養成

## 1. 研究計画の概要

本研究は、戦後日本の幼児保育の展開を、制度、行財政、理論、カリキュラム、保育実践、保育者の養成と現職研修といった側面から、総合的、実証的に明らかにすることを第一の課題とし、戦後改革による新制度のスタートから高度経済成長期に至る日本の幼児保育を歴史的に跡付けるとともに、日本における幼保二元化政策の形成と特質の解明を行う。また、幼保二元化政策との関わりで常に問題として提起されてきた幼保の一元化や5歳児保育の義務制・無償制、保育者養成と資格をめぐる問題等についても、1930年代から70年代を対象に問題史的アプローチを行い、戦後日本の幼児保育問題の全体像を描き出すこととしたい。これらの歴史的・実証的研究は、日本の幼児保育史研究の進展に不可欠であるばかりでなく、今日の幼児保育をめぐる政策課題を検討する上で、重要な示唆を与えるものとなると思われる。

## 2. 研究の進捗状況

(1)戦後幼児教育制度の成立・展開過程に関する研究：①幼保一元化、幼児教育義務化論を中心に、戦前期からの議論を整理・分析し、戦前・戦後の幼児教育制度改革構想の内実とその特質を明らかにした。②戦後の幼児教育制度改革の展開について、GHQ/SCAP文書を用いて検討し、保育要領や幼稚園教育要領、幼稚園基準の作成経緯を明らかにした。

(2)保育者養成と現職研修制度の成立と展開に関する研究：①戦前期の保姆検定制度の実

際とその特質について、地方史料の収集・検討により明らかにした。②戦後改革期の幼稚園教員認定講習会（再教育講習会）について、1947年の愛育会主催「全国保姆指導講習会」の資料を発掘し、講習会の実際とその内容を明らかにした。③占領期の教育指導者講習（IFEL）について、関係資料の収集と検討を行い、アメリカ人講師が伝えた新保育、幼児教育研究法、幼年教育の在り方とそれが戦後日本の幼児教育に与えた影響について明らかにした。

(3)幼稚園カリキュラム・保育実践に関する研究：①お茶の水女子大学附属幼稚園、奈良女子大学附属幼稚園、名古屋市立第一幼稚園、土浦市立土浦幼稚園等において、戦前・戦後の幼稚園カリキュラムおよび保育記録等の収集と整理を行い、保育実践の実際について検討した。②1920年代から40年代の東京と奈良の女子高等師範学校附属幼稚園における幼稚園カリキュラムの特質および保育実践の実際を明らかにし、『日本における保育実践史研究』として刊行した（高月教恵著）。③保育所「若竹の園」において保育実践記録の収集と整理を行い、保育所保育の実際を明らかにした。④幼小連携に関する戦前・戦後の取り組みを検討し、「幼稚園と小学校の連携・接続をめぐる歴史的考察」にまとめ、文科省の関係会議で報告した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

戦後の幼児保育行政の検討は、各地の実態調査に時間を要しており、研究成果を論文等で公表するには至っていないが、その他については、進捗状況に示した通り、研究計画に従って研究が進展しており、着実に成果を上げている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今後はさらに検討時期を戦後改革期から高度経済成長期までに拡張し、幼稚園と保育所の普及過程における地方格差について、財政措置との関連で検討し、幼保二元化の実相に迫るつもりである。また、各自がこれまでの研究成果のまとめを行うと同時に、1930年代から70年代を対象に問題史的アプローチを行い、戦後日本の幼児保育問題の特質を描き出すこととしたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ①塩崎美穂、菊地知子「日常性から離れない保育学にむけて—「系統的保育案」から「対話的保育カリキュラム」へ—」『人文科学研究』第6巻、2010年、81～93頁、査読有。
- ②湯川嘉津美「戦後改革期の幼稚園教員再教育講習会—1947年の愛育会主催「全国保姆指導講習会」を中心に—」『上智大学教育学論集』第43号、2009年、29～51頁、査読無。
- ③高月教恵「森川正雄と奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育内容・方法」『福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報』第6号、2009年、107～116頁、査読有。
- ④高月教恵「大原孫三郎と保育所「若竹の園」設立についての一考察」『福山女子短期大学研究紀要』第36号、2009年、58～63頁、査読有。
- ⑤塩崎美穂「保育の中の対話とは—「対話」という思想の広がり—」『現代と保育』第77号、2008年、6～22頁、査読無。

[学会発表] (計8件)

- ①佐野友恵「秋田県の事例にみる戦前日本における保姆検定制度の地方特性」日本乳幼児教育学会第20回大会、2010年10月23日、関西学院大学教育学部。
- ②湯川嘉津美「戦後日本の幼児教育改革—保育要領・幼稚園基準の作成を中心に—」日本保育学会第63回大会、2010年5月22日、松山東雲女子大学。
- ③湯川嘉津美「戦後日本幼児保育史の探究—制度・理論・実践—」日本保育学会第62

回大会・自主シンポジウム、2009年5月17日、千葉大学。

- ④湯川嘉津美「戦時体制下の幼児教育制度改革要求—「国民幼稚園」の主張を中心に—」日本保育学会第62回大会、2009年5月16日、千葉大学。
- ⑤湯川嘉津美「昭和初年の幼児教育制度改革構想—帝国教育会幼児教育部による学制改革案の検討を中心に—」日本保育学会第61回大会、2008年5月18日、名古屋市立大学。
- ⑥高月教恵「森川正雄と奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際」日本保育学会第61回大会、2008年5月17日、名古屋市立大学。

[図書] (計9件)

- ①安川悦子監修・開学論集委員会編(高月教恵分担執筆)『児童教育学を創る—福山市立大学開学論集—』児島書店、2011年、「IFELの実際—大橋和子によるルイスの講義ノートを中心に—」135～162頁。
- ②永井聖二・神長美津子編(湯川嘉津美分担執筆)『幼児教育の世界』学文社、2011年、「日本における幼児教育の系譜」14～29頁。
- ③高月教恵『日本における保育実践史研究』御茶の水書房、2010年、300頁。
- ④浜田栄夫編(湯川嘉津美分担執筆)『ペスタロッチー・フレーベルと日本の近代教育』玉川大学出版部、2009年、「幼稚園の誕生とフレーベル主義教育」76～96頁、「倉橋惣三における誘導保育論の成立」118～136頁。
- ⑤日本保育学会編(湯川嘉津美分担執筆)『戦後の子どもの生活と保育』相川書房、2009年、「倉橋惣三の保育実践研究と『生活』」197～204頁。